

# 令和7年度事業報告書

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

特定非営利活動法人エバーラスティング・ネイチャー

## 1. 事業の成果

海洋生物及び自然環境の調査研究、保全、資源管理に関する事業として、インドネシアおよび関東ではウミガメ類を、小笠原ではウミガメ類およびザトウクジラを対象にした事業を継続した。各拠点および組織基盤強化の視点で事業の中長期目標を新たに設定し、その達成に向けて事業を遂行した。

インドネシアにおいては、タイマイ保全活動地4島とオサガメ保全活動地1海岸での調査や保全活動を継続した。今年度は保全を継続するための取り組みとして、行政からの支援獲得およびカウンターパートの人材育成に注力した。西カリマンタン州海洋水産局の担当職員をプナンブン島へ招請し、現地視察を通じて具体的な支援の可能性について議論を深めた。オサガメ保全活動地に関する方針を団体内で合意し、モニタリングの継続を実施した。

小笠原では、繁殖のため来遊するアオウミガメの調査保全活動を継続した。今年度は更に、卵の移植がふ化幼体に与える影響について実験を行い、学会で発表した。また、外部研究者との共同研究も積極的に行い、成熟個体の年齢査定やウミガメ捕食生物の生態解明など、小笠原の事業内容の質が大きく向上した。

ザトウクジラについては、小笠原で確立・運用してきたAIによる個体識別照合アプリを他団体向けに開発・協力し、他地域における市民科学を活用した生態調査に貢献した。加えて、小笠原への来遊数および生存率の解明、国内の他地域との交流や回遊経路の解明、国外の研究機関へのデータ提供や共同研究も継続した。

海洋生物及び自然環境の調査研究、保全、資源管理に関する人材育成事業も継続した。海洋生物をテーマに研究を行う学生に対してサポートを実施したほか、海洋生物の調査や保全に関心がある一般の方々を広く受け入れ、知見を広める場を提供した（小笠原：島内18名、島外50名、横浜：20名）。インドネシアにおいては、カウンターパートであるインドネシアウミガメ研究センター（YPLI）の職員および監視員に対し、調査保全に関する指導や情報提供を継続した。また、YPLI職員には事業課題を発見し解決するための能力開発に注力した。

海洋生物及び自然環境に関する普及啓発事業として、「小笠原村屏風谷施設（通称：小笠原海洋センター）」の運営管理や、当施設を利用した教育啓発・エコツアー事業を継続した。島内での新たな活動として、母島小中学校の2年生を対象とした総合学習に取り組んだ。また、学校法人や水族館での子ガメ短期育成および子ガメ飼育体験プログラムである「ウミガメジョイントブリーディング（ウミガメJB）」は新しく3組織が加わり、計9組織で継続した。情報発信の影響力を高めるため、Webページの改良にも取り組んだ。講演は、ウミガメJBに付随する講演が5回、外部依頼講演が6回、自主および共催講演を8回開催した。

国内外においてオリジナルグッズの物品販売事業を継続し、新商品開発や販路構築に努めた。

## 2. 事業内容

### (1) 特定非営利活動に係る事業

#### 1 海洋生物及び自然環境の調査研究、保全、資源管理に関する事業【支出額:22,534千円】

##### 1. インドネシアにおけるウミガメ調査及び保全事業

【内容】 タイマイ保全を目的としたジャワ海での保全活動は、4島（セガマ・ブサール島、プスムット島、キマル島、プナンブン島）で継続した。今年は、タイマイ5,662巣（前年比+219）とアオウミガメ1,574巣（前年比+799）の卵を盗掘から保護し、推定約235,800匹のタイマイと37,000匹のアオウミガメを海に帰すことができた（2025年1月-12月）。プナンブン島において

保護監視の強化を行った結果、平均脱出率が前年と比較してタイマイは37.3%、アオウミガメは16.4%増加した。西カリマンタン州海洋水産局へ現地視察を依頼し、12月に実施された。視察の場では、同州に対しプナンブン島がタイマイ産卵地として重要であることを訴えけるとともに、保全手法や活動実態の紹介を氏、支援要請を行った。現地視察の様子とプナンブン島の活動について同局のYoutubeチャンネルでも配信された（138回視聴※2026/4/14時点）。その他、タイマイ保全事業の活動資金源の強化として、新規タイマイサポーター募集キャンペーンを12月3日～12月24日の期間で実施し、20名が新規サポーターとなった。新規助成事業の一環として、プスムット島におけるウミガメ卵保護成果の向上に取り組んだ。

西パプア州では、ジェン・シュアアップ海岸でのウミガメ産卵数のモニタリング調査を継続した。今年度のジェン・シュアアップ海岸では1,233巢(2025年1-12月)で、大きな減少は見られなかった。

- ・ 地球環境日本基金助成事業（一部）
- ・ Billion Baby Turtle助成事業（一部）
- ・ パブリックリソース財団助成（一部）
- ・ 大成建設自然・歴史環境基金助成事業（一部・令和8年度分含む）

【日時】 令和7年4月1日から令和8年3月31日

【場所】 ジャワ海周辺（セガマ・ブサール島、プスムット島、キマル島、プナンブン島）、西パプア州（ジェン・シュアアップ地区）

【従事者人員】 4人

【対象】 ジャワ海周辺地域の住民、海洋漁業局、西パプア州地区住民など約1,000人

## 2. 小笠原諸島におけるウミガメ調査及び保全事業

【内容】 小笠原諸島においてアオウミガメの産卵巣モニタリング調査及び標識放流調査、ふ化後調査、人工ふ化放流、短期育成を実施した。父島市街地に隣接する大村海岸では産卵時期に合わせてパトロールを行い、帰海できなくなった産卵メスガメや入海できないふ化稚ガメの保護も行った。卵の移植がふ化幼体にもたらす影響を調査するため実験を実施し学会で発表した。食用捕獲されたメスガメの体内から採取された体内卵のふ化事業を実施した。また、食用捕獲されたウミガメが誤食していた人工物サンプルの採取もおこなった。外部研究者と共同研究を積極的に行い、研究者3名、修論生1名、卒論生1名の受け入れ、成熟個体の年齢査定やウミガメ捕食生物の生態解明など小笠原の事業内容が大きく向上した。

- ・ 小笠原村アオウミガメ保護増殖補助事業（一部）
- ・ TOTO水環境助成事業（一部）
- ・ 東京鼈甲組合連合会委託事業（一部）
- ・ 科学研究費補助金（一部）
- ・ 笹川科学研究助成（一部）

【日時】 令和7年4月1日から令和8年3月31日

【場所】 小笠原諸島

【従事者人数】 8人

【対象】 島民（約2,700人）、一般(不特定多数)

## 3. 関東沿岸におけるウミガメ調査事業

【内容】 関東沿岸（茨城県、千葉県、神奈川県）のウミガメ漂着（ストランディング）調査および定置網におけるウミガメ混獲調査を実施した（全情報180頭中73頭調査※2025年1-12月）。

漂着・混獲情報は、既に構築されたネットワーク（行政や関係機関、漁業者、団体や個人など）からだけでなく広く一般からも収集し、関東のほか宮城県・福島県・三重県・鳥取県、愛媛県・福岡県・沖縄県からも寄せられた。一昨年度から日本全国における漂着オサガメ調査を実施し、情報収集や関係構築にも努めた。オサガメまた関東に漂着・混獲するアカウミガメ（一部アオウミガメ）の年齢査定および遺伝的系群解析事業の共同研究を実施した。加えて、これらの個体を活用したウミガメおよび付着生物の生態解明に関する共同研究を積極的に受け入れ、海洋生態系の解明に貢献した。

- ・ 水産関係民間団体事業補助事業（一部）
- ・ 科学研究費補助金（一部）
- ・ TOTO水環境基金（一部）

【日時】 令和7年4月1日から令和8年3月31日

【場所】 茨城県、千葉県、東京都、神奈川県など

【従事者人員】 4人

【対象】各地団体及び個人（サーファー、カヤッカー等）、行政関係者、漁業関係者、水族館関係者、大学・研究者など約200人

#### 4. 小笠原諸島におけるザトウクジラ調査事業

【内容】尾びれによるザトウクジラの個体識別調査を他団体と協働で実施した。エコツーリズムの一環として野生生物の研究や保全に関与することで、保全への理解を深めることを目的とし、市民科学の導入も実施し、尾びれ写真を一般から広く募集した。今年度も個体識別照合作業にAIを導入することで作業の効率化を図るとともに、市民科学者からの情報提供と個体情報の迅速な提供を実現できた。確立し運用してきたこの市民科学システムを国内他地域で活動する他団体と協力し、他地域でも運用を開始した。また、過去のデータを用いて小笠原に来遊するザトウクジラの個体数や生存率を解明するため、引き続き解析に取り組んだ。また、沖縄、奄美、北海道、伊豆諸島などザトウクジラが来遊する国内地域の大学・研究機関と回遊経路や交流の実態など生態解明に取り組み、その一部を公表した。国外の研究機関へのデータ提供や共同研究を実施した。

・ 科学研究費補助金（一部）

【日時】令和7年4月1日から令和8年3月31日

【場所】東京都小笠原村父島

【従事者人員】5人

【対象】島民（約2,700人）

### 2 海洋生物及び自然環境の調査研究、保全、資源管理に関する人材の育成事業【支出額:9,865千円】

#### 1. インドネシアにおけるウミガメ調査及び保全に関する人材育成事業

【内容】インドネシア現地カウンターパートYPLIのスタッフや、YPLIスタッフを通して各保護事業実施地域の監視員に対して調査技術や保全事業の指導を行った。YPLIスタッフに対して新たに年間計画の作成と振り返り（目標、結果、課題、改善策）を実施した。これにより、課題の抽出と目標達成に向けた具体的な活動手順の習得を目的として実施した。

【日時】令和7年4月1日から令和8年3月31日

【場所】ジャワ海全域（セガマ・ブサル島、プスムット島、キマル島、プナンブン島、中部ジャワ州、ジャカルタ首都特別州）、西パプア州（ジェン・シュアップ地区）

【従事者人員】5人

【対象】ジャワ海西部の地域住民（30～50名）、西パプア州のオサガメ監視員及び地域住民（10人）

#### 2. ボランティア、インターン及び研修生の受け入れ及び指導事業

【内容】海洋生物の調査や保全に関して興味がある人々を一般から広く受け入れ、知見を広める場を提供するほか、海洋生物をテーマに研究を行う学生に対してサポートを行った。

小笠原父島内では延べ18名（令和6年度24名）の父島在住ボランティアが活動に参加。島外からは延べ50名（令和6年度73名）の受け入れを行った。内、41名が大学生（令和6年度59名）、9名が社会人（令和6年度14名）であった。ボランティアの平均滞在日数は17日（令和6年度21日）。最大85日。最小4日。GW前の4月や、繁忙期が過ぎた11月ごろからの参加が数名ほど少なかったが、繁忙期7～9月は十数名の参加があり、こちらは例年通りであった。

横浜事業所ではウミガメ漂着調査補助の受け入れをおこなった他、プロボノ支援の元で普及啓発事業開発をおこなった。20名の方に、述べ66日160.5時間参加いただいた。

・ TOTO水環境基金（一部）

【日時】令和7年4月1日から令和8年3月31日

【場所】東京都小笠原村父島、神奈川県横浜市（オンライン、関東圏内調査含む）

【従事者人員】8人

【対象】一般

### 3 海洋生物及び自然環境に関する情報提供、普及啓発の事業【支出額:11,340千円】

#### 1. 小笠原村屏風谷施設の運営管理事業

【内容】小笠原村より運営管理を委託された「小笠原村屏風谷施設（通称：小笠原海洋センター）」を利用し、海洋生物に関する情報提供及び普及啓発を島民や来島者に対して行った。

・ 小笠原村アオウミガメ保護増殖補助事業（一部）

・ 小笠原海洋センター運營業務受託事業（一部）

【日時】令和7年4月1日から令和8年3月31日

【場所】東京都小笠原村（小笠原海洋センター）

【従事者人員】9人

【対象】島民及び来島者

## 2. 教育啓発・エコツアーリズム事業

【内容】小笠原小学校の5年生に対して総合学習を通しウミガメに関する教育・啓発を行うほか、島民や来島者に対して海洋生物に関する情報提供及び普及啓発を行った。海洋生物保全と地域経済活性化を両立させることを目的にエコツアーリズム基盤を構築した。また、母島小中学校2年生を対象とした総合学習を新たに実施した。

- ・自然公園等保護基金（一部）

【日時】令和7年4月1日から令和8年3月31日

【場所】東京都小笠原村父島

【従事者人員】6人

【対象】一般

## 3. ウミガメジョイントブリーディング（子ガメ短期育成および飼育体験学習）

【内容】下記の9施設にて、子ガメ短期育成と飼育体験を通じた教育・普及啓発活動を実施した。一部の組織に対しては、子ガメ短期育成に関連したウミガメ講演を対面で行った。

前年度より継続して参加した施設

- ・学校法人佐藤栄学園 さとえ学園小学校
- ・学校法人シモゾノ学園 国際動物専門学校
- ・ランブラス・キャピタル株式会社 オーチャード沼津
- ・ランブラス・キャピタル株式会社 オーチャード開智
- ・オリックス水族館株式会社 すみだ水族館
- ・株式会社BISOU

令和7年度から新たに参加した施設

- ・学校法人シモゾノ学園 大宮動物国際専門学校
- ・学校法人水野学園 日本さかな専門学校
- ・Gaia Japan株式会社 アクアパーク川越

【日時】令和7年4月1日から令和8年3月31日

【場所】東京都、神奈川県、埼玉県、静岡県、長野県

【従事者人員】8人

【対象】小学生1,000人、専門学校生500人、一般

## 4. WEBサイトによる情報発信事業

【内容】エバーラスティング・ネイチャーの活動理念や目的、インドネシアや国内での活動成果を一般に広く公開するために、ホームページにおいて情報の発信を行った。FacebookやX(旧Twitter)、Instagram、メールマガジンと連携して広報を行った。小笠原海洋センターのホームページに、夜間放流会の開催通知及びウミガメレスキューの情報を掲載し、島民の方がアクセスしやすいようにした。また、ウミガメ教室2時間コース及び3時間コースのページを見やすいように改良するなど、観光客にリーチしやすいようにデザインを変更

【日時】令和7年4月1日から令和8年3月31日

【場所】神奈川県横浜市（当団体横浜事務所）、東京都小笠原村（小笠原海洋センター）

【従事者人員】8人

【対象】一般

## 5. シンポジウム・イベント開催出展事業

【内容】ウミガメに関するイベント開催や環境関連の各種イベント出展を通し、活動の紹介や海洋生物の普及啓発を行った。他団体主催イベントにも内容を吟味したうえで積極的に参加し、今後のイベント事業の在り方について模索した。調査保全事業で得られた結果・知見について、会議や学会にて公表し、保全のための生態解明に寄与するための活動を行った。

【日時】令和7年4月（シモゾノ学園講演） 6月（港区エコプラザ講演・「ウミガメ」と「カードゲーム

from Me」を通じて自分自身のウェルビーイングを見つけるワークショップ・シモゾノ学園大宮校講演・すみだ水族館×小笠原村コラボ講演・さとえ学園小学校講演) 7月(すみだ水族館講演・JTBチャータークルーズにつぼん丸乗船講演) 8月(オーチャード沼津講演) 10月(館山市家庭学級講演・飛鳥II乗船講演) 11月(神津島保育園講演、神津島小学校講演(全学年対象)・神津島高校講演(1-2年生対象)・神津島島民向け講演※・カメDE Show! 出店・日本ウミガメ会議参加) 令和8年1月(ELNAアクションミーティング開催) 2月(小笠原DAY出店講演※・小笠原アカデミー講演・ザトウクジラ勉強会) 3月(国際ウミガメ会議参加および講演)

・TOTO水環境基金助成事業(一部)※

【場所】神奈川県、東京都、埼玉県、千葉県、静岡県、徳島県、アメリカ合衆国

【従事者人員】9人

【対象】一般

## (2) その他の事業

### 1 物品販売【支出額: 4,489千円】

【内容】「小笠原村屏風谷施設(小笠原海洋センター)」の展示館や「ELNAサポートショップ(エバーラスティング・ネイチャーのWEBサイトでのネット販売)」、各種イベントにおいて物品の販売を行った。広報の一助を担うELNAカレンダーを今年も販売し好評を得た。今年もスタッフの発案をきっかけに多彩なグッズ開発・販売をすることができた。販売サイトSuzuriの活用やボランティア経験者向けの受注生産もおこない、新たな商品開発および販路構築にも努めた。

【日時】令和7年4月1日から令和8年3月31日

【場所】東京都小笠原村(小笠原海洋センター)、神奈川県横浜市(当団体横浜事務所)

【従事者人員】8人

【対象】会員及び一般消費者

### 2. 陸域における野生生物及び自然環境の調査研究に関する事業

【内容】小笠原諸島父島において、その数の増加が懸念されており、ウミガメの卵やふ化幼体を捕食する等、ウミガメにも脅威となっている野ネズミを捕獲しその数を調査することで、小笠原海洋センター内の野ネズミの個体数の現状把握に努めた。同時に、殺鼠剤がアオウミガメにおいて感受性が高いことが示唆されているため、殺鼠剤以外の方法で野ネズミを駆逐する方法を模索した。主にネズミかごを使用し、センター内でのネズミ被害は防止できた。また、ウミガメ卵の食害の最も大きな割合を示す、スナガニ類であるミナミスナガニとツノメガニの摂餌生態についても共同研究として取り組んだ。アリ類も同様にウミガメ卵を捕食すると考えられているが、アリによる捕食を明らかにするための実験を行なった。

【日時】令和7年4月1日から令和8年3月31日

【場所】東京都小笠原村(小笠原海洋センター)

【従事者人員】5人

【対象】一般

### 3. 野生生物及び自然環境の利活用による社会問題解決に資する事業

【内容】ウミガメ飼育が及ぼすアニマルセラピー効果を実証するため、高齢者介護施設において外部研修者と協働で試験および検証を行った。

【日時】令和7年4月1日から令和8年3月31日

【場所】神奈川県横浜市(当団体横浜事務所)、静岡県

【従事者人員】3人

【対象】一般